

成果報告書

環境情報学部 二年 大森優花

概要

- ・ タイトル:「学生主導の学びのコミュニティ再建と新たな試み:慶應義塾大学 SFC フランス語研究室の SA 制度活用事例」
- ・ 発表形式:口頭発表 対面
- ・ 学会:Rencontres pédagogiques du Kansai 2025 (RPK 2025) <https://rpkansai.com/>
- ・ 参加期間:2025 年 3 月 26 日~2025 年 3 月 27 日
- ・ 開催形式:現地での対面開催

研究の概要

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)のフランス語研究室では、伝統的に SA (Student Assistant)制度を利用して授業補助だけではなく、学内のフランス語学習コミュニティの拡充に努めてきた。他大学では、言語専用の研究室がありそこで学生が雇用されているということが極めて少ないが、SFC フランス語研究室は研究室 SA 制度をキャンパス開設当時より活用し、学生主体の研究室運営を続けてきた。去年東京都で行われた学会の質疑応答で得たヒントをきっかけに今まで挑戦してこられなかった他大学／キャンパスとの交流をスタートすることができたため、今回の発表でも RPK に集うフランス語教育の専門家の方々に我々の活動を評価いただき、新たなフィードバックに基づいて、来年度のフランス語研究室の活動方針を練り直したいと考えた。

また、教育補助ツールとしての SNS が持つポテンシャルや投稿のあり方について関心を持っている。交流を経てフランス語教育における「実践を促す」次世代型コンテンツのヒントを得るだけでなく、アトリエ参加者には SNS の「身近な教育補助ツール」という広報以外の面を周知したいと考えた。

研究成果と今後の展望

大学キャンパスにおけるフランス語学習コミュニティ運営と、学生アシスタントの活用および協働の一端を紹介することで、より良い学習環境づくりを共に考える機会にできた。実際、参加者から研究室 SA 制度自体への質問やフランス語研究室の活用方法など幅広い質問がたくさん飛びかかったことが印象深い。

慶應 SFC 学会 (A) 研究成果発表 (学会発表)

そして、新たなフィードバックを得ることができた。

- ① 来客者を増やすための工夫：研究室の場所を知らない、そもそも入りづらいと感じている履修者がいる可能性について問われた。

→ 去年からは学期はじめにフランス語の授業が開講されている教室をめぐりフランス語研究室の存在を周知し、SNS で教室名をアピールするなどの工夫をしてきた。しかしフィードバックを受け、研究室に案内するきっかけを作り、またフランス語研究室へより気軽に訪れられるよう、「中の様子」についても発信していきたいと考えた。

- ② SA 同士のコミュニケーション：SA 内で仕事の偏りは、そもそも組織であることから避けられないというご意見や学生主体の組織であるからこそ生まれる問題なのではないかというご意見を頂いた。

- ③ 大学間交流の継続について：交流会は基本的に日本語で行っているため、フランス語をあまり使っていないことを疑問に思う声が上がった。そして、現段階では大学間交流に参加するメンバーは SA と交流先の団体に所属する人のみで構成されている事実に対しても指摘を受けた。

→ 他大学との交流は去年から始まった試みということもあり、規模は限定的であった。しかし、このフィードバックを受け今後はフランス語履修者の交流も実現したいと考えている。一方で、無視できない現実的な問題としてキャンパス間の物理的な距離がある。参加のハードルを下げるために SNS 上の交流（コラボレーション）する機会を設ける案が上がった。今後の展望として、交流先の大学と共に履修者が参加してみたいと思うまたは、気軽に参加できるコンテンツを練りたい。現時点で Instagram が提供するサービスの中では、Templates、Add Yours、Questions、Polls などを使用してインタラクティブなコンテンツを発信していきたい。

本発表で頂いた評価やフィードバックを真摯に受け止め、来学期もフランス語研究室の一員、そして副チーフとして就任したことによってより良い学習環境作りやフランス語学習コミュニティの拡大に貢献していきたい。

謝辞

この度は本学会への参加費用を援助して下さった事を深く感謝申し上げます。